

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1744410
園名	清心幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ポニーと遊ぼう

<テーマの設定理由>

自分の体よりはるかに大きい動物とのふれあいを通して、命の温かさ、言葉ではないコミュニケーションツールを体得し、感じて考えて行動する力を育む。

2. 活動スケジュール

4月22日 東松山ポニー牧場にて、ポニーがどんなところで生活しているかを知り、ポニーの世話をを行い、生態を知る。
5月21日 幼稚園にてポニーとの触れ合い、草あげ、引綱
6月21日 園庭にポニーを放牧し、走る様子、草を食べる様子を観察
6月24日 石神井公園にて小グループで引綱
9月20日 石神井公園にて触れ合い、引綱
10月11日、18日 石神井公園にて引綱、足上げ
1月24日、28日、31日 石神井公園にて引綱、乗馬
2月18日 東松山ポニー牧場にて 1年の活動締めくくり、馬房見学、ブラッシング
3月31日 東松山ポニー牧場にて職員研修

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

- ・ポニー牧場に実際に足を運ぶ遠足から始まった1年を通したポニーとの関わり。初めにポニーの生活の場を見ることで子どもたちの興味関心が広がり、もっとポニーと仲良くなりたい。もっと知りたいという意欲的な姿が見られた。
- ・ポニーがどんな草を好むのか、さまざまな視点で考えて、実際にどんな草をどのように食べているのか観察する活動をし、根っこは食べないことを知る。食べた後でも根っこを残せばまた新しい草が生えることに気が付いた。
- ・様々な障害物があるコースでの引綱体験（カーブ、道草）二人組になって一緒にゴールを目指す。（二人で心を合わせる）
- ・乗馬体験、手綱の持ち方、どのように操作すればポニーに指示が伝わるのか。
- ・草上げ。上げるときの手の形、どんな草を好んで食べるのか。
- ・ポニーの足上げ、どんな形？危険ではない体制の取り方。
- ・放牧の様子。どうやって走るのか、その姿は耳、尻尾、何に向かって走っていくのか。園庭のどんな植物を食べるのか。
- ・ボロ拾い。どんなボロなのか。匂いや形。どうやって掃除するのか。

4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ポニーと遊ぶを通して、相手（ポニー）を知る手立てを自分で考え、それらが確実に実を結び、引綱や乗馬につながった。言葉でのコミュニケーションではないところで、真剣に取り組むことができた。大型動物との関わりは危険のリスクもあるので、活動中もどこにいたら蹴られるか、何をしたら危険なのかを考え、動いていた。
- ・複数人で力を合わせる場面があり（二人で引綱、馬房掃除等）お互いに声を掛け合い、取り組む姿も見られ、年長ならではの姿があった。
- ・継続した触れ合いをすることで、子どもたちが自分のペースでポニーと距離感を縮めていくことができた。またひとつひとつの活動が自身につながり、ポニーを慈しみ、仲間として考える言動や行動が見られた。
- ・積極的にポニー屋の吉川さんに質問をする事ができ、自分の持つ疑問を言葉にしていた。



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1744410
園名	清心幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

南米の太鼓、ジャンベで遊ぼう

<テーマの設定理由>

音でコミュニケーションを取る、人と合わせる楽しさに気が付く、音の違いに気が付く。
「聴く、合わせる、見る、考える」に焦点を当てた活動を通して、音を探求した。

2. 活動スケジュール

月に二回ずつ、学年別のグループで講師 PANMAN 指導の下、ジャンベの活動をした。

活動日→4月30日、5月16日、17日、6月3日、4日、7月1日、2日、9月9日、10日、10月15日、16日、11月11日、12日、12月2日、3日、1月20日、21日、2月17日、18日、3月10日、11日

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

・形、大きさが様々なジャンベをホールに準備し、自分で選んで取りに行き、楽器によっての音の違いに気が付く様子があった。

・講師の姿がよく見えるように円形に椅子を配置し環境設定を行った。

・言葉を多くは用いらず、音の強弱に気が付き自分も真似てみるなど、回を重ねるごとに集中して見て、考えて、音を出す姿が見られた。

・たたき方の多様性にも気が付き、指1本、手のひら、太鼓の中心、端っこの音の違いに気が付く姿もあった。

・太鼓の底が空洞になっていることに気が付き、音が響いて鳴ることに気が付き、耳を近づけて体感し、それを周りの人に伝える様子もあった。

4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・普段言葉でのコミュニケーションが取りにくい子も、ジャンベの音で会話をすることで、心が解放され、気持ちを発散している姿があり、様々なコミュニケーション方法があることに保育者が改めて気が付いた。

・楽器を用いて活動することで、言葉での支持ではない、音を聞いて考える活動を通して、よく集中して聴いている子、意識が向かない子の姿が明らかになり、日常の保育のヒントもあった。

・音が自然と集まり、みんなとそろった時の一体感を体感し、一人ではなく、仲間と活動する楽しさに気が付く様子もあった。





とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1744410
園名	清心幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然遊び

<テーマの設定理由>

自然と触れ合い季節の移ろいを感じる。色遊び、一滴のしずくから広がる水への興味、落ち葉を使って形で遊ぶ。五感を使った活動の充実を図る。

2. 活動スケジュール

4月12日、13日 春の遠足(下見を含む)場所：稲荷山公園 対象：年中
4月遠足以降～自然物を使ったペンダント作り
5月11日、16日 春の親子遠足(下見を含む)場所：史跡公園 対象：年少
5月遠足以降～自然物集め、お店屋さんごっこ
9月18日、10月10日 秋の遠足(下見を含む)場所：稲荷山公園 対象：年長
10月遠足以降～木の実を用いた活動
10月10日、15日 秋の遠足(下見を含む)場所：稲荷山公園 対象：年長
遠足以降～落ち葉を使った活動
11月8日、12日 秋の親子遠足(下見を含む)場所：史跡公園 対象：年少
親子遠足以降～無患子の泡遊び等
1月21日 野外保育 場所：史跡公園 対象：年長児

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

- ・自然の中での活動なので予測不能な部分もあり、その日しか出会えない自然の中で存分に活動できるように園外活動の際は直前に下見をし、周到な準備を行った。(雨、風、晴れ等様々な天候を想定)
- ・興味関心が生まれるよう、コーナーを設え、参加しやすい工夫。目に留まるような環境設定を心掛けた。
- ・その日に行った活動が継続して行われ、保育者が意図的に次につながるような環境設定をし、活動が広がった。
- ・正解のない活動が多く、集中して取り組む姿、また別の活動へ自然とつながる様子が見られた。こども自身が見つけた発見を発表する場を設け、全体の共有を図った。
- ・こどもが自然物を収集してもそこから活動が続かない場面で保育者が本づくりを提案、その後作品が出来上がり、またそれを見た他児がまねをして活動をしたりと、多様に活動が広がった。
- ・準備した道具→文房具一式(ハサミ、のり、テープ、リボン、ビニール袋等)、絵の具、様々な容器、画用紙等。
- ・無患子の泡遊び(洗濯してみよう、色をつけてみよう)
- ・水に浮かべて(花、ゆず、みかん)
- ・自然の絵の具で遊ぼう(色水作り→太陽の光にあててみよう、草花クレヨンで描画活動)

4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・講師の先生を交え、毎回保育後に振り返り、反省会を行った。自然物を用いた活動をすることで、正解がなく多様な広がりが見られることが実感にあった。しかし、自然が対象なので周到な準備と関わる保育者の経験や感性、自然に対する敏感な対応が求められ、難しさもあった。日々意識的に自然に触れる保育を展開することでこどもの自然に対するアンテナがたくさん張られ、空を見る、匂いを嗅ぐ、手で触る等五感を使った活動が日常的に見られるようになった。







